



2/9 新春の生月路で健脚を競う



生月支所前をスタート・ゴールとし、島の東側の海岸線に沿うコースで行われる「いきつきロード2020」大会が開催されました。

全22種目、市内外から約583人が出場し、日ごろ鍛えた健脚を競いました。沿道には応援のために多くの人が駆け付け温かい声援を送っていました。招待選手として県内の実業団で活躍する選手も参加し、参加者らと一緒に走る姿が見られました。

大会終了後は、地元の団体や業者が出店した料理を堪能していました。

2/7 築地のシェフが平戸食材を絶賛



東京のレストラン「築地ボン・マルシェ」の薄公章シェフが、市内の事業者や生産現場を訪れ、地元産品についての意見交換と調理実演を行いました。

現在、本市では戦略的な水産物の流通販売体制を構築するため、専門家を招致しアドバイスを受けており、今回はその一環として「著名料理人による市内生産者・事業者等巡回指導・意見交換会」を開催。薄シェフは、平戸食材を絶賛。平戸産の柑橘、シイラ、タコ、ヒラマサなどを実際に調理しながら、地元産品の活かし方についてアドバイスしていました。

1/5~17 平戸市の高校生がオランダに短期留学し異文化を体験



1月5日から17日まで、姉妹都市オランダ王国ノールトワイク市との高校生短期交換留学事業が行われ、市内の高校生11人がオランダの家庭にホームステイしながら学校に通い、異文化を体験しました。

交流の最後には、オランダの生徒と協力し関係者の前で交流事業での自身の成長を英語で発表しました。写真は、花の絆で結ぶプロジェクト運営委員会が寄贈し、ノールトワイク市内に植樹している木を囲んでの1枚です。



2/14~16 地元を背負ってたすきをつなぐ



2月14日から16日の3日間にわたり「第69回郡市対抗県下一周駅伝大会」が行われました。各都市代表の11チーム、小学生から壮年まで各世代から約380人の選手がエントリー。42区間、407.3キロのコースで競いました。

14日の午後には田平町に入り松浦市へ。15日には平戸桟橋をスタートし、平戸大橋を通り佐世保市へと走っていました。平戸チームは、多くの市民の声援を受けながら、全選手が最後まで懸命にたすきをつなぎました。

2/9 初開催中野じげもん祭り



中野漁協拠点跡地で、中野地区まちづくり運営協議会主催の中野じげもん祭りが開催されました。

平成31年4月1日に発足した中野地区まちづくり運営協議会が、地区の農海産物などの販売を通じ、地区産品のPRと地域の活性化を図ることを目的に、はじめて開催。祭りでは、地元園児による太鼓や中野ジャンガラの披露のほか、地元の特産品販売、ぜんざいのふるまい、マグロの解体ショーや即売会、bingo大会やもちまきが催され、家族連れなどたくさんの人たちで大いにぎわいました。

2/2 春の風物詩川内峠の野焼き



川内峠で「野焼き」が行われ、約30ヘクタールの草原に炎が燃え広がりました。当日は、午前9時ごろから消防職員や消防団、地元住民ら約150人が区画ごとにガスバーナーで火入れしました。

パチパチと激しく音を立てて燃え広がる炎と白煙に訪れた観光客からは大きな歓声が上がりました。また、各地から詰めかけた写真愛好家らは、勢いよく枯れ草が燃えていく様子を撮影していました。野焼きした跡には、3月ごろからワラビなどが芽吹きます。

1/26 西浦ありさが駅舎デビュー



たびら平戸口駅において、鉄道むすめ「西浦ありさ」の任命式が行われました。

鉄道むすめは、鉄道模型メーカーの株式会社トミーテックが展開するキャラクターで、「西浦ありさ」は松浦鉄道の広報係という設定です。任命式には、全国各地から鉄道むすめのファンや地元住民などが訪れ、グッズ購入や記念撮影を行っていました。その後、西浦ありさのヘッドマーク付き列車が到着し、訪れたファンなどが乗車し、西浦ありさの音声による沿線の観光案内などが行われました。